

日本とアメリカのトランスジェンダーについての大学生の見解

アレックス・クレイグ

マーキー・モズリー

カリフォルニア州立大学モントレーベイ校

要旨

トランスジェンダーは一般的に今日の社会で容認されてきているが宗教的な立場、正しい教育の欠如、メディアからの誤った情報で形成されたステレオタイプがあることも否定できない。このキャプションでは、トランスジェンダーについて日米の大学生はどのような見解を持っているのか。また、彼らの見解には何が影響しているのかについて追及した。アンケート調査を行った結果、アメリカ人の方が日本人に比べトランスジェンダーの人が身近にいる場合が多いことがわかった。また否定的な見解は日本でもアメリカでも宗教には起因していないことがわかった。このことはアメリカ人はあまり宗教の教えの通りには忠実には従わないうえ、日本人もあまり宗教心のある人がいないからだと考えられるかもしれない。トランスジェンダーに関しての情報は日本人はテレビやドキュメンタリーから学ぶ傾向があるのに対し、アメリカ人は自分で学んでいる人が多いようである。また、アメリカではソーシャルメディアやテレビ番組の影響により、トランスジェンダーに対して肯定的な見解が形成されるようだが、日本では中立的な立場をとる人が多いという事もわかった。

はじめに

トランスジェンダーは今日の社会では容認されているが様々な認識があることは否定できない。メディアからの誤った情報で形成されたステレオタイプがあることも否定できない上、宗教的な立場からの意見も様々である。日本とアメリカの大学生はトランスジェンダーをどのように認識しているのか、また宗教、教育、メディアはどのように大学生の考え方に影響をもたらしているのかここでもっと深く追及したいと思う。

1. 研究の重要性

この研究の著者の一人であるクレグはトランスジェンダーである。そのことから、日本とアメリカの学生がどのような認識をトランスジェンダーに対して持っているのかを調べることは重要性を感じている。トランスジェンダーに対してしてどのような誤った情報やステレオタイプを持っているのかを知りたいと思った。共著であるモズリーはトランスジェンダーへの正しい理解は今の社会において重要であるが、よく見過ごされ

ている課題であると思っている。また、男性に生まれて人が女性に移行したいが、家族の宗教的観念のためにできない友人がいることに疑問を感じこの研究でさら日米の大学生のトランスジェンダーに対する認識についてもっと追及したいと思った。

2. 研究質問

1. トランスジェンダーについて大学生はどのような見解を持っているか。
2. 大学生の見解にはどのような事が影響しているのか。

3. 研究背景

3.1 トランスジェンダーの定義

トランスジェンダーは多くの異なるアイデンティティの包括的な用語、トランスとして識別する人は、出生時に分類された性別と一致しない性同一性、性別および/または性別の表現を有する。例として、ノンジェンダー、バイジェンダー、インターセックス、MTF（男性から女性に移行した）、とFTM(女性から男性に移行した) (Teich, 2012)。

3.2 日本でのトランスジェンダーの呼び方

民族範疇は現代西洋医学に従って表現され実施されているジェンダー・バイナリの厳格な定義以外のアイデンティティを記述したもの。例として「男娼」や「ブルーボーイ」などの日本固有の用語。そして「ニューハーフ」と「ミスターレディー」の2つの新しい用語が登場した。ニューハーフとは様々な程度の外科手術を受けたエンターテイナーの呼称である(McLelland, 2004)。

3.3 トランスジェンダーの統計

ウィリアムズ研究所によると2016年の研究から推定140万人のトランスジェンダー成人である。これはアメリカの成人人口の0.6%、カリフォルニア人口の0.76%を占めている。Dentsu Inc.の2012年インターネット調査によると、20人に1人、または5.2人の人口が推定されている。このように、日本では推定7,000~10,000人のトランスジェンダーである。アメリカのトランスジェンダーの人数の方が多いために日本では人口密度が高いため、日本のトランスジェンダーの人のパーセンテージがアメリカより高い。

3.4 トランスジェンダーと宗教：アメリカ

アメリカでは宗教にトランスジェンダーに関する教義がある。旧約聖書の経典の中の創世記1章ではジェンダーバイナリを実施する聖句があり、レビ記21章と申命記23章ではこうがんのつぶれた物は宗教の集まりには加わってはならない、申命記22章では女は男の着物を男は女の着物を着てはならないとしている。イエスが説く新約聖書の経典の中のマタイ6章とルカ12章では、自分の身体や身につけるものについて心配はいらない、マタイ19章では不能に生まれた男又は去勢された男はいつでも存在しており、使徒の働き8では宦官を宗教的な集会参加者として受け入れるべきだとしている。ユダヤ教では、旧約聖書に従い、最終的にトランスジェンダーをみとめない。しかし、キリスト教では、不能に生まれた男性や去勢された男性を認め、トランスジェンダーを一人の人間として受け入れない。そして、この人達を初めてのトランスジェンダーの人と考え、伝道者とバプティズムの候補者として受け入れることが出来、ユダヤ教とは対照的なことが一番重要な相違点と言える。

3.5 トランスジェンダーと宗教：日本

日本の宗教では、トランスジェンダーの人についてほとんど中立の立場がある。神道ではトランスジェンダーに対してこれといった意見は提示されていない。クロスドレスは神道の伝統の一部であった。なぜなら女性は儀式に参加できなかった。男性は儀式の内外で時にはクロスドレスが可能があった。また性別を変えることが出来る神もいる。例として、お稲荷様は女性でもあるし男性でもあり、仏教では観音様は男女一体神がいる。元来、仏教では、トランスジェンダーに関しては何も触れていなかった。日本の仏教はすべての人のために男女平等という教えの大乗仏教が基盤であった。しかし、これは現代の仏教における教えは宗派によって異なる。現代、トランスジェンダーに関する教えは、過去の人生からのカルマ（姦通、複数のパートナーなど）の結果であると考えられている (Bolich, 2009)。

3.6 トランスジェンダーと教育：アメリカ

アメリカの州の中で24の州が性教育を義務付けており（図1）、性的指向に関する議論を取り入れなければならない州は13州のみである。しかし、性教育授業における性同一性の議論を義務付ける州はない（図2）（Guttmacher Institute, 2017）。

図1

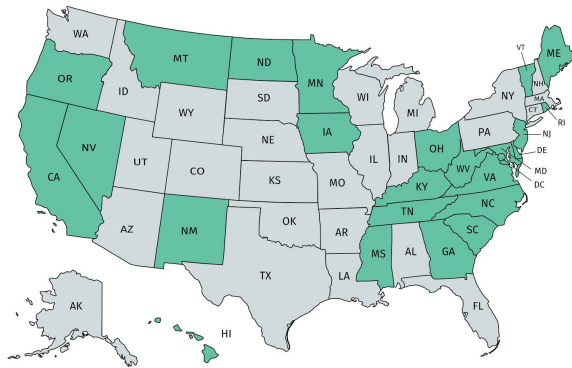
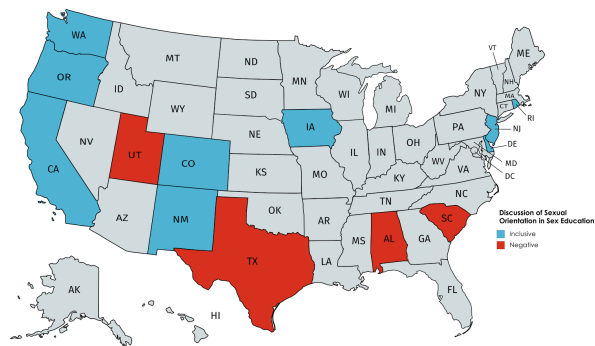


図2



2016年に米教育省司法省は1972年の教育改正のタイトルIXで、連邦政府の財政援助の受給者によって運営される教育プログラムおよび活動における性差別を禁止している。このリストは教育改正法の対象となっている物と保護されていない物のリストである(U.S. Department of Education, 2016)。

3.7 トランスジェンダーと教育：日本

今年（2007）、日本のいじめ防止政策には、性的および性的マイノリティの学校への保護が含まれた(Human Rights Watch, 2017)。また、教育省は、学校で学生が制服や更衣室をトランスジェンダーの学生が識別する性別で使用できるように学校に促している(Murai, 2015)。2011年の宝塚歌劇大学看護学院の調査によると、わずか14%の教師がトランスジェンダーについて教えたことがあると答えた。学校での一番の問題は、日本の集団主義的な社会の中で、学校の規律と教師からのいじめを分けることが難しいと言える。しかし、教育面から言うとトランスジェンダーに関する問題について教育する方針を取っている都道府県もある。例えば福岡県では2013年にLGBT問題を教えるワークショップを開催した(西日本新聞, 2013)。

3.8 トランスジェンダーとメディア：アメリカ

アメリカのGLAADという非営利団体は毎年「私達のテレビでの居場所」と言うレポートを発表し、ブロードキャスト、ケーブル、およびストリーミングサービスにおけるLGBTQを含むキャラクターの数を文書化している。放送テレビに出てくるトランス女性は最高で3人で、トランス男性は0であった。ケーブル番組に出てくるトランス女性は最高2人で、トランス男性は4人である。ストリーミングサイトではトランス女性は7人で、トランス男性は1人である。実際のトランスジェンダーの人を描いたトランスキャラクターがいくつかある。例としてGLAADは、7つの主要な映画スタジオからリリースされた映画のLGBTキャラクターの数、性質、多様性をまとめた年次「Studio Responsibility Index」を発表した。「Vito Russo Test」は、LGBTキャラクターの描写を3つの基準で判断した。テレビでは、トランスジェンダーを積極的かつ包括的な観点から捉えており、ストリーミングサイトはそのキャラクターの描写の先駆けとなった。映画では、2015年に唯一トランスジェンダーを扱った映画は聴衆が笑うための物としてトランス女性が紹介されトランスジェンダーをジョークとして描写する傾向がある(GLAAD, 2016)。

3.9 トランスジェンダーとメディア：日本

トランスジェンダーは歴史的に娯楽産業と関連しており、現代も続いている。トランスジェンダーの人々に関連する役割は、その人物のアイデンティティではなく、パフォーマンスと見なされるため、真剣に取り上げられない問題に繋がっている。上川あや（日本の初めてのトランスジェンダーの政治家）は、「人がメディアで見る物とトランスの人から直接聞くのとは大きなギャップがある」と言っている。昔はメディアに影響されトランスジェンダーであるためホステスの仕事しかできないと思いこんでいたが、今は政治家として活躍している。このようにトランスジェンダーへの正しい認識が大事になる(Hoffart, 2011)。

4. 研究方法

この調査には63人の大学生に参加してもらった。内訳は日本人32人、15男性と17女性、アメリカ人31人、15男性と17女性。オンラインアンケートを通してデータを集めた。

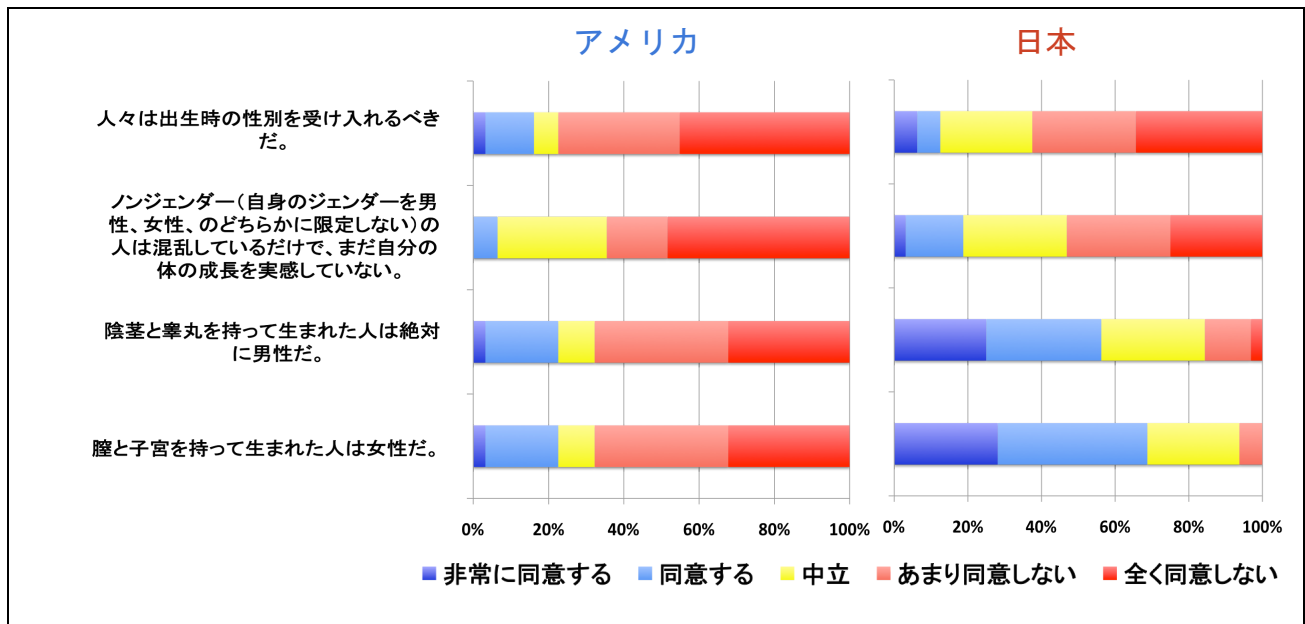
5. 研究結果

5.1 研究質問 1

トランスジェンダーについて大学生はどのような見解を持っているか。

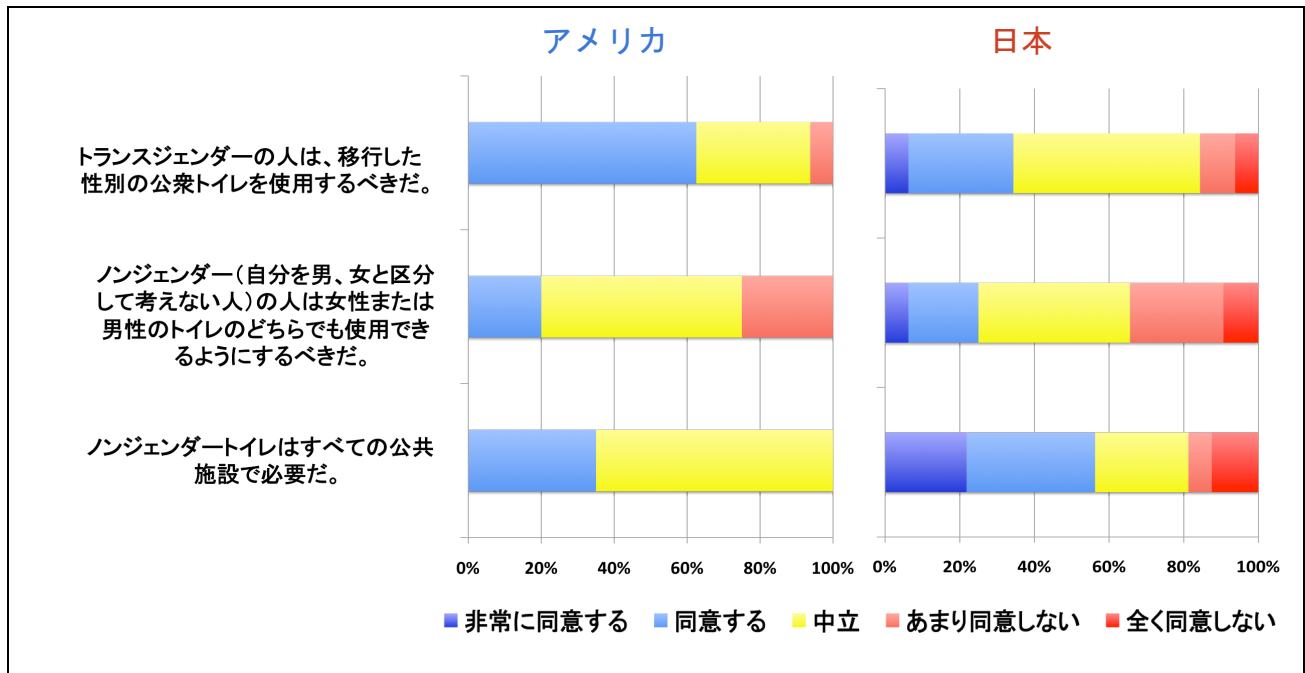
生物学的に関するステートメントに対してアメリカ人の学生は、性器が性別と直接相関することに強く同意しないという傾向が高いが、日本人の大学生は性器と性別が同じだと答えた（図3）。

図3：生物学的のステートメント



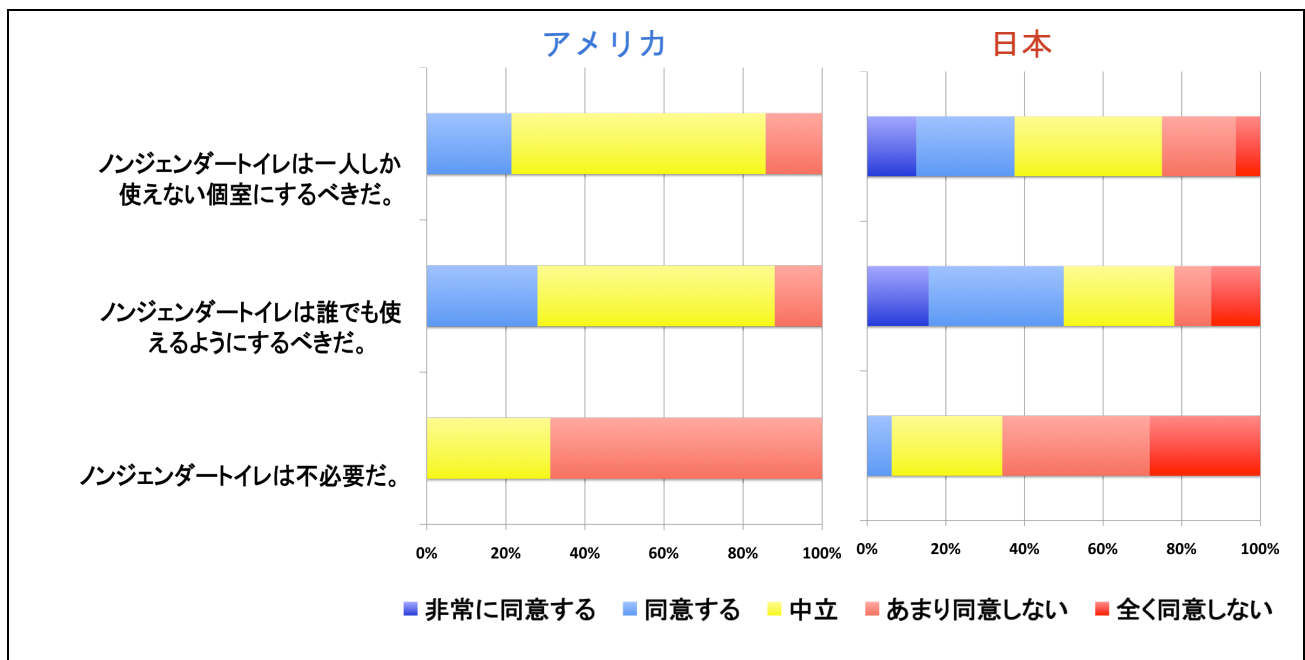
トイレに関するステートメントに対して多くのアメリカ人の学生はノンジェンダートイレが必要だと感じ、日本人の学生はノンジェンダートイレのシナリオについての質問にはほぼ中立だった（図4）。

図 4 : トイレのステートメント



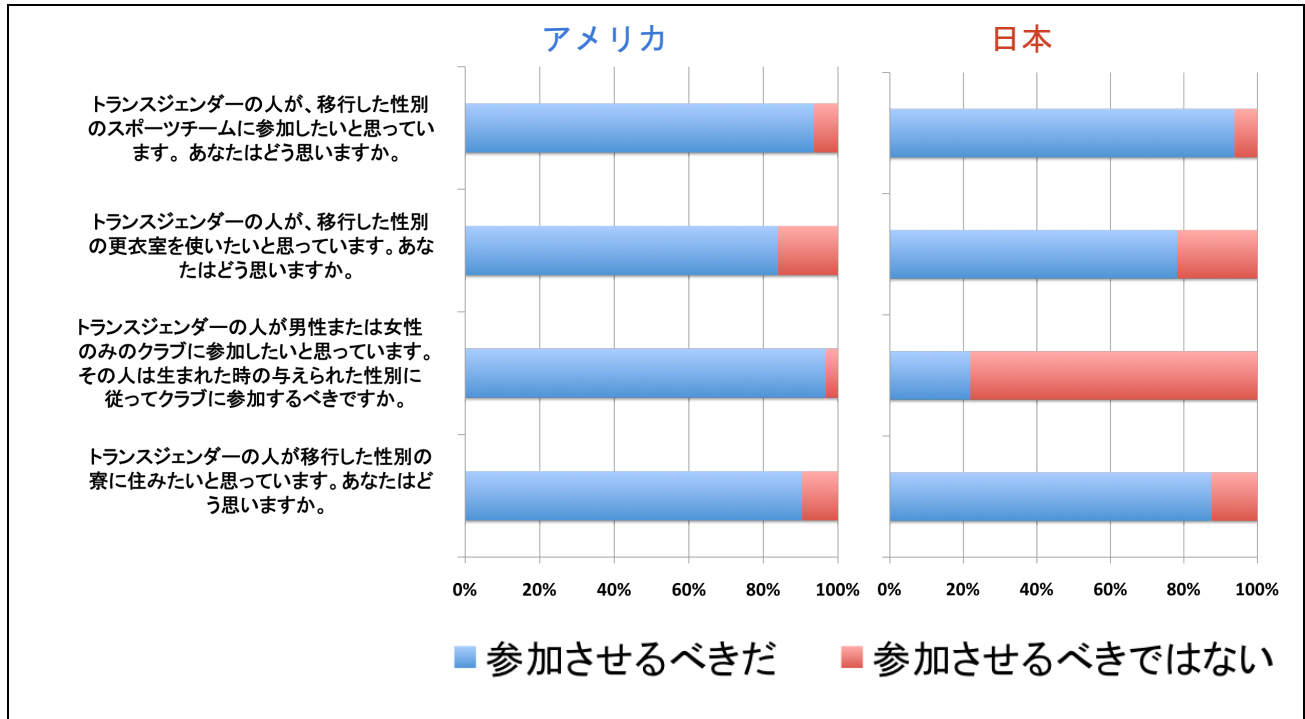
また、日米の学生共にノンジェンダートイレを誰が使用するかという質問には特に意見がなかったが、必要性を感じているようだ（図5）。

図 5 : ノンジェンダートイレのステートメント



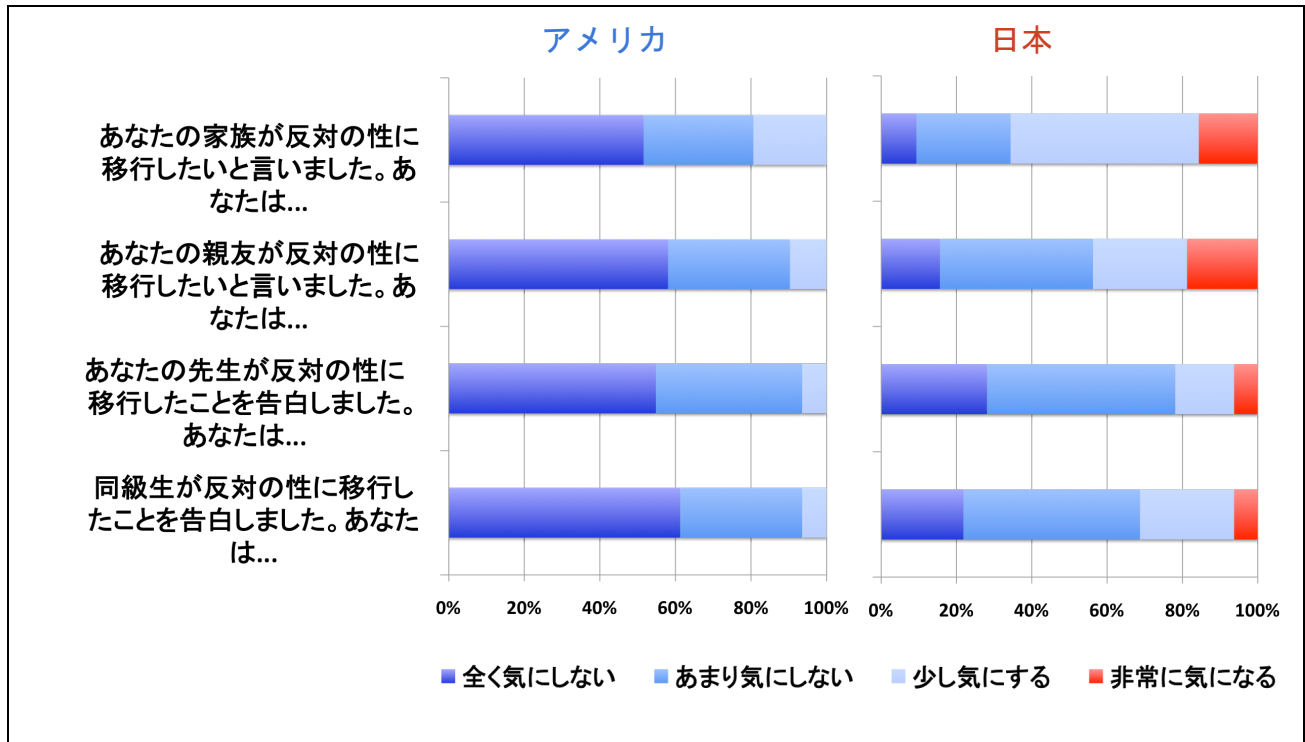
大学のクラブ活動に関するシナリオに対しては、日米の学生はトランスジェンダーの人が移行した性別のクラブ活動や学校活動に参加するべきだと同意した（図6）。

図6：大学のシナリオ



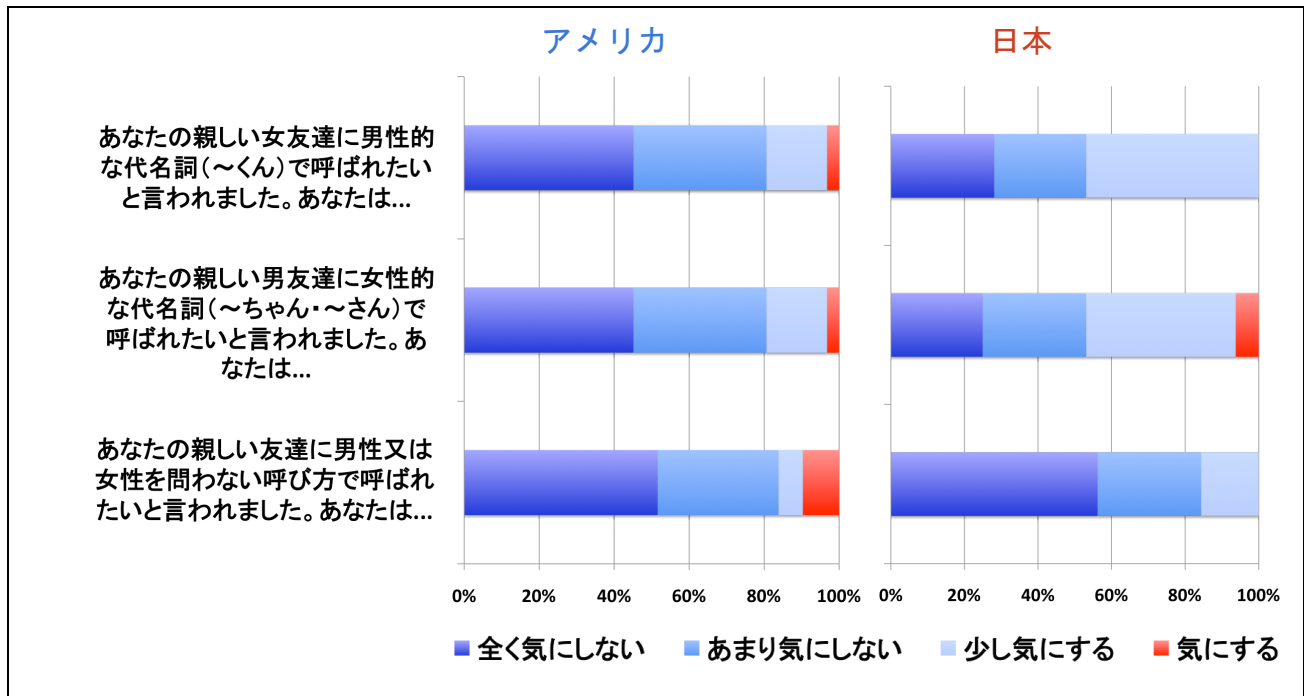
個人生活に関するシナリオに対して多くのアメリカ人の学生はトランスジェンダーを絶対的に受け入れ、日本人の学生は一般的に受け入れていることが分かった。しかし、日本人の学生は移行したい友達と家族の考えは受け入れにくいとしている（図7）。

図7：個人生活のシナリオ



代名詞に関するシナリオに対してアメリカ人の学生は親しい友達が移行したい性別の代名詞で友達を呼ぶことに全く抵抗がなく、日本人の学生はノンジェンダーの代名詞で友達を呼ぶことに抵抗がない（図8）。

図 8 : 代名詞のシナリオ



5.2 研究質問 1 の結果

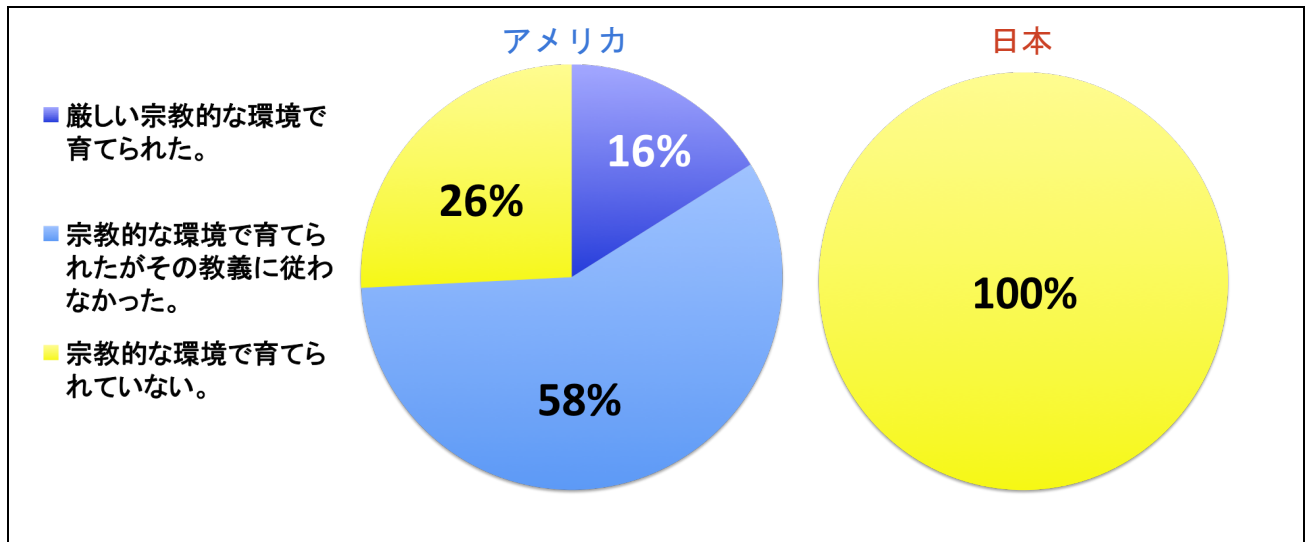
アメリカ人の学生は正規のバイナリ以外の性別の多様性を受け入れている。日本人の学生は性器と性別がジェンダーに直接関連している。アメリカ人の学生はトランスジェンダーのアイデンティティを受け入れ、オープンであると言える。日本人の学生はノンジェンダーのアイデンティティと公共の施設の使用について受け入れていると言える。日米の学生共に、性別移行したことを知っている人を受け入れているように見えるが、日本人の学生は移行したい友達と家族の考えは受け入れにくいとしている。

5.3 研究質問 2

大学生の見解にはどのような事が影響しているのか。

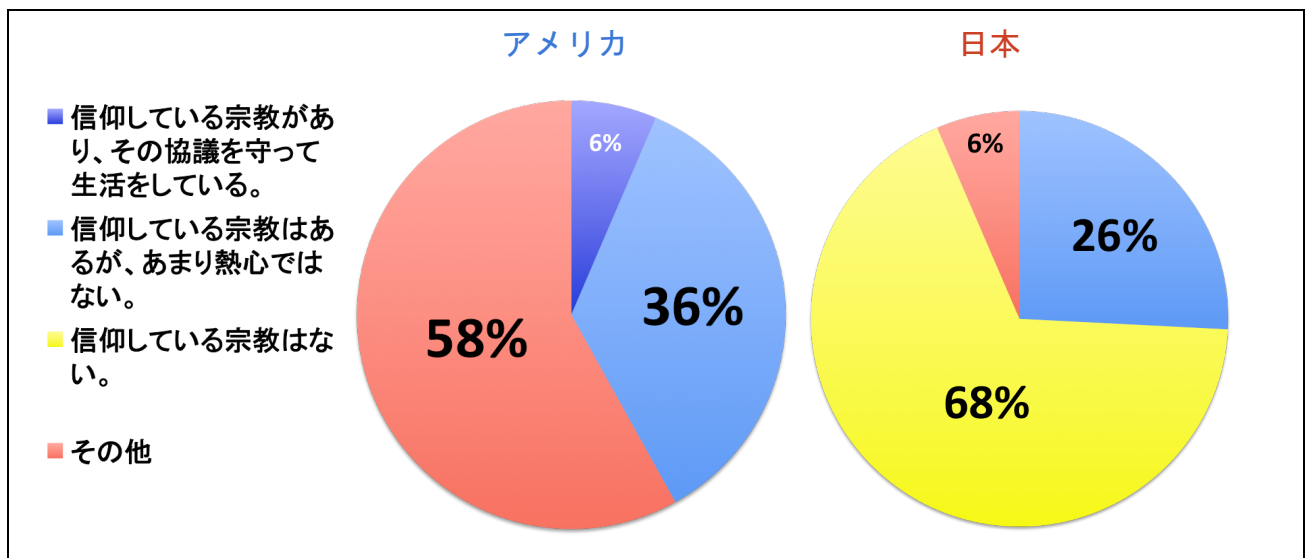
「あなたは宗教的な環境で育てられましたか。」という質問に対してアメリカ人の学生の方が宗教的な環境で育ったが教義に従わなかったが、全ての日本人の学生は宗教的な環境で育てられていなかった(図9)。

図 9 : 宗教的な環境



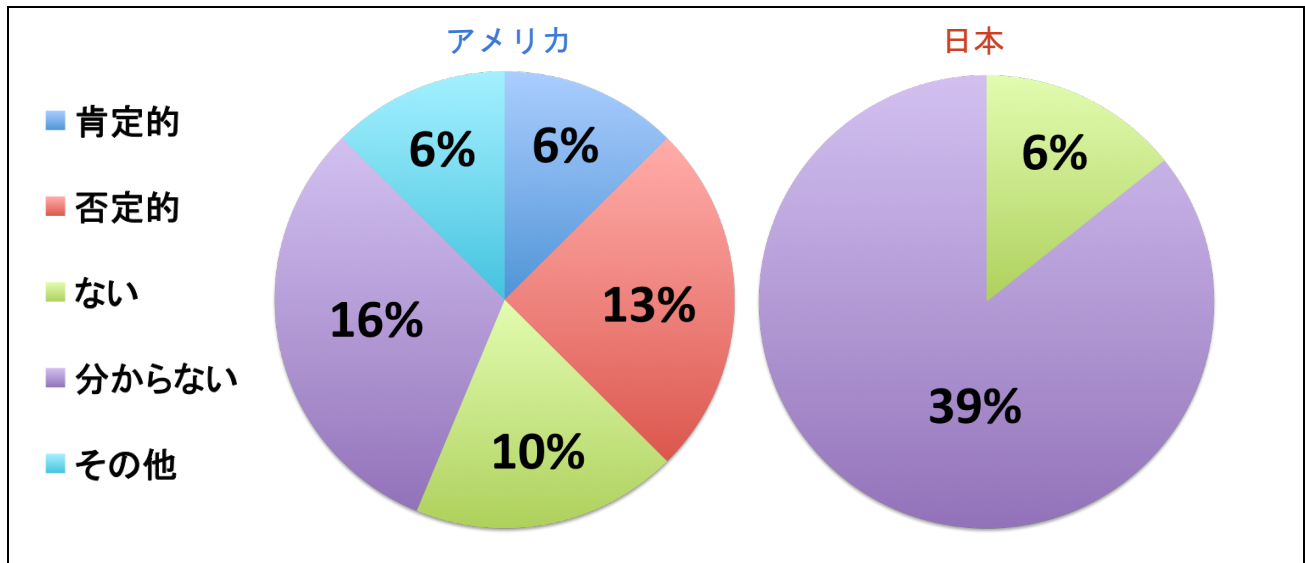
「あなたには信仰している宗教がありますか。」という質問に対してアメリカ人の学生は信仰している宗教があるのにも関わらずあまり熱心ではなく、多くの日本人の学生は信仰している宗教はない（図 10）。

図 10 : 信仰している宗教



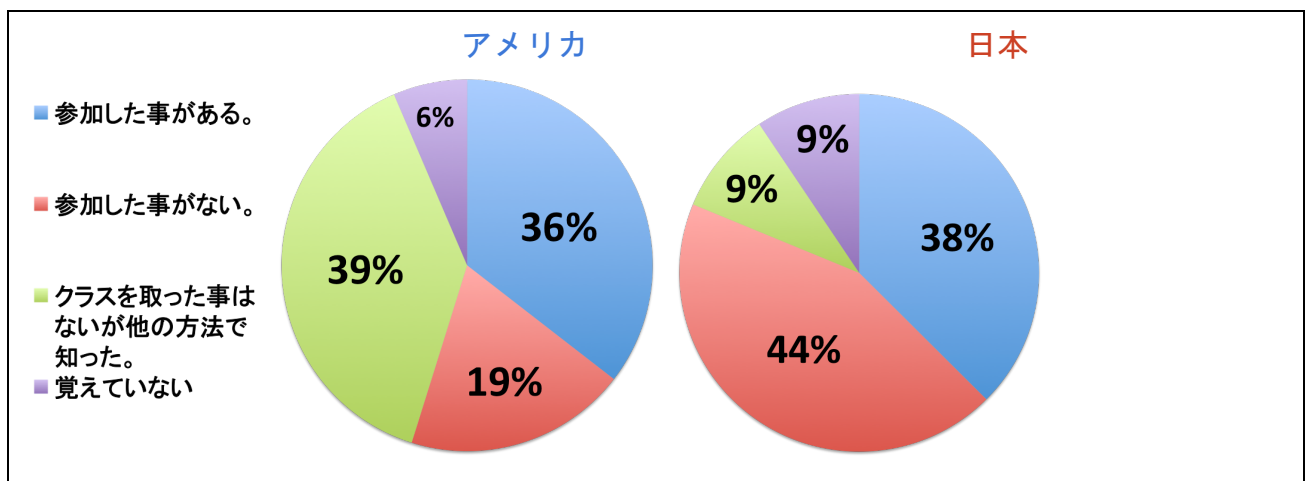
「あなたが信仰している宗教には、トランスジェンダーに関して肯定的または否定的な教義がありますか。」という質問に対して日米の学生の信仰している宗教はトランスジェンダーに関する教義があるかどうか分からないと答えたが、多くのアメリカ人の学生が否定的な教義があると認識している（図11）。

図11：宗教の教義



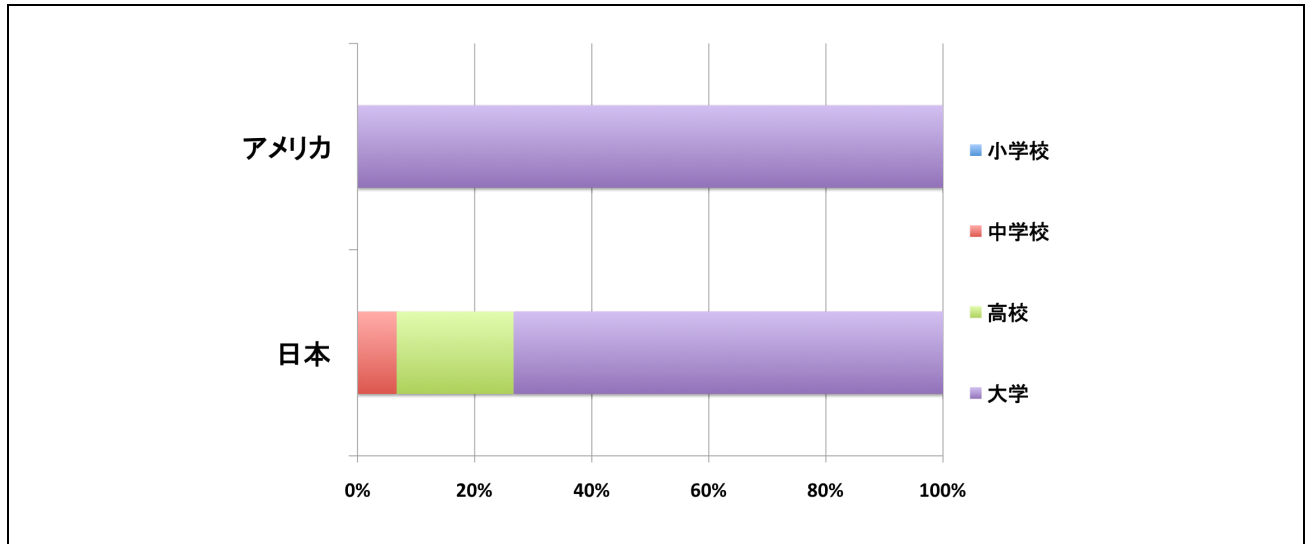
「トランスジェンダーに関する授業に参加したことがありますか。」という質問に対して多くのアメリカ人の学生は授業以外で知ったが、日本人の学生はトランスジェンダーに関する授業を取ったことがない（図12）。

図12：授業



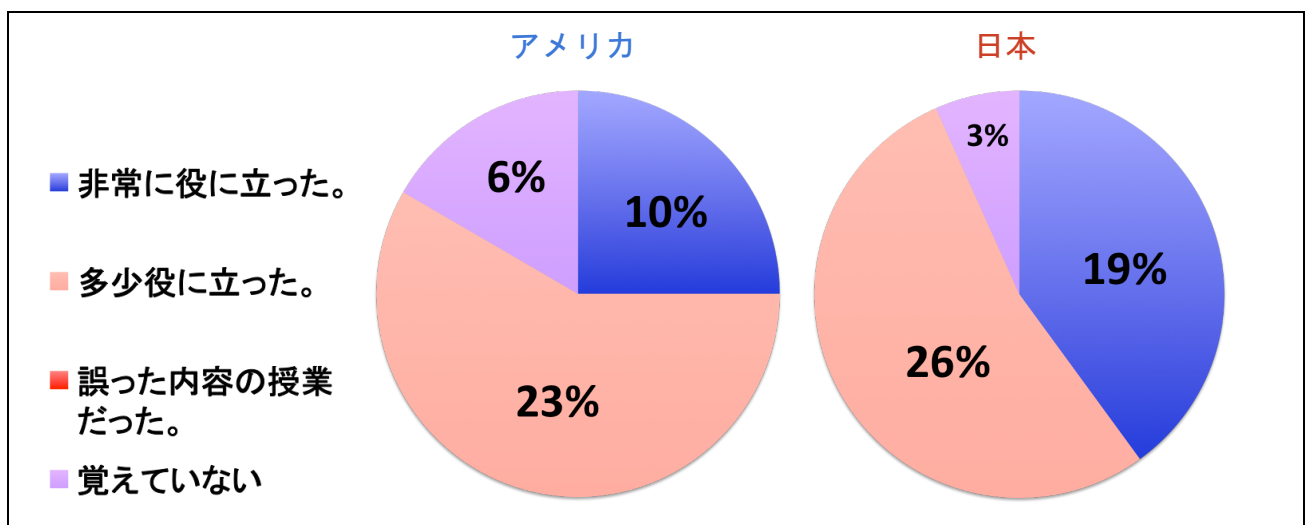
授業を取ったことがある学生の中で「その授業にいつ参加しましたか。」という質問に対して日米の大部分の学生は大学でトランスジェンダーに関する授業を取った（図 13）。

図 13：授業に参加した年生



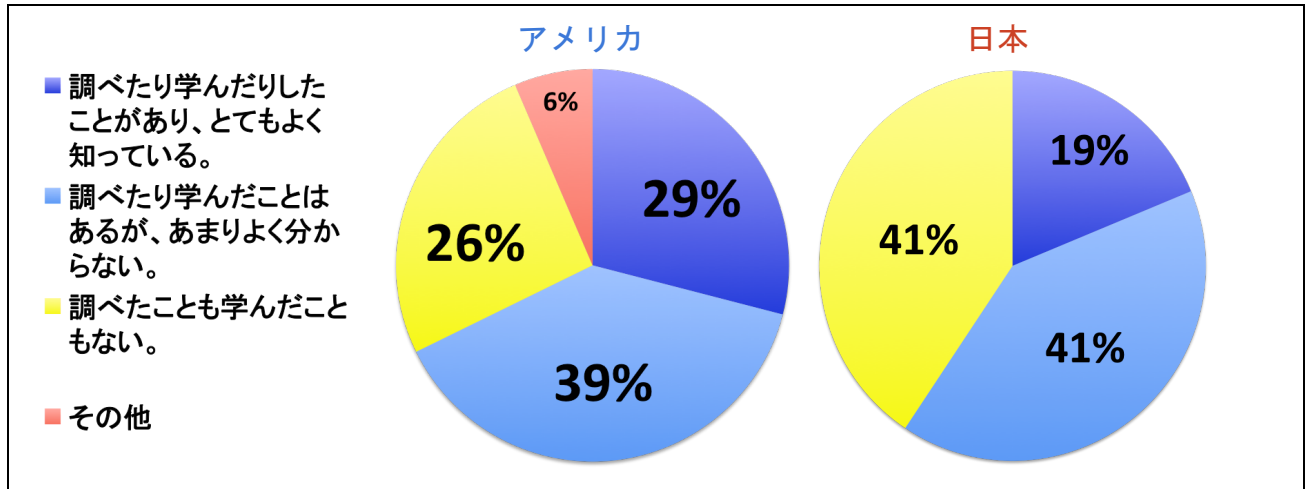
授業を取ったことがある学生の中で「そのトランスジェンダーについての授業の内容は、あなたにとって非常に役立つ物でしたか。」という質問に対して日米の学生はその授業が多少役に立ったと答えた（図 14）。

図 14：授業の価値



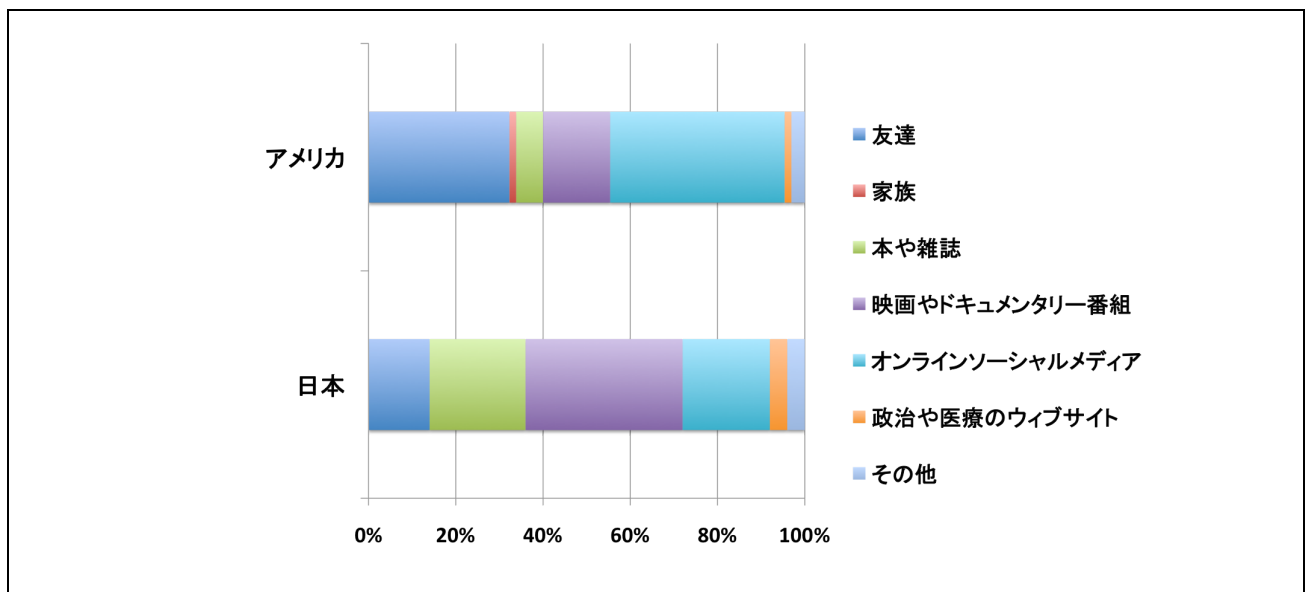
「あなたは今までに自分自身でトランスジェンダーについて調べたり学んだりしたことがありますか。」という質問に対して日米の学生共に自分で学んだことがあるがあまりよく分からないと答えた（図15）。

図15：調べた経験



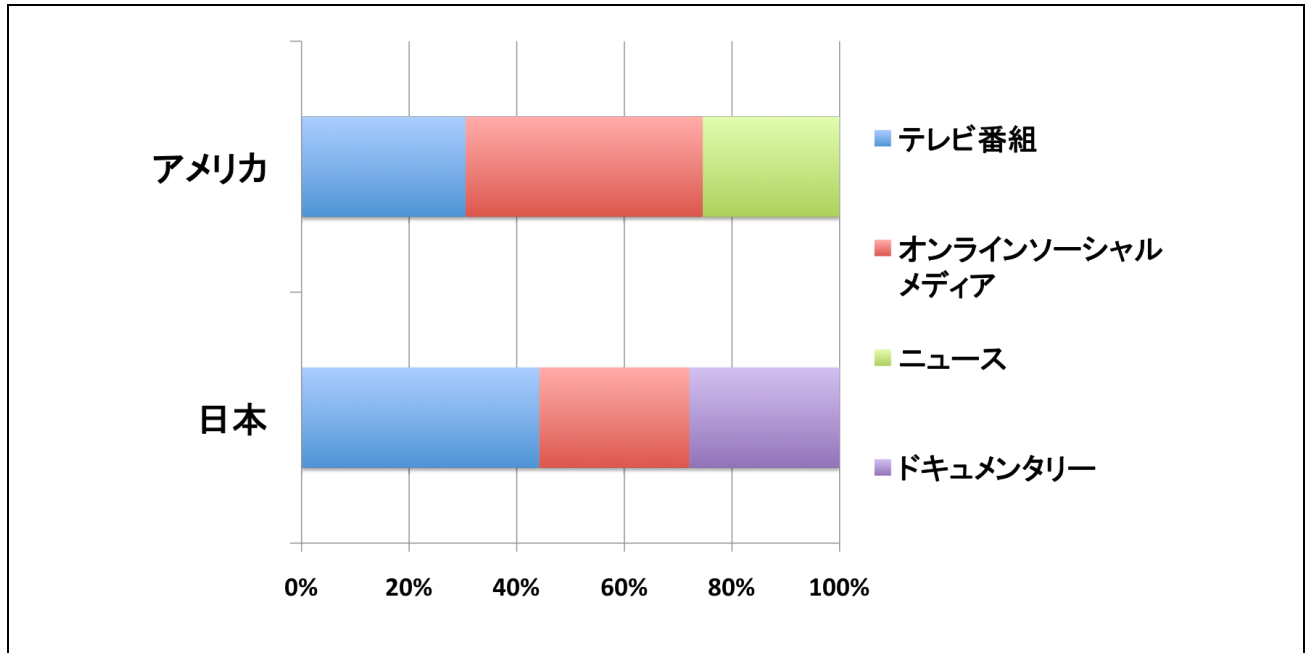
調べたことがある学生の中で「あなたはどうやってトランスジェンダーについて知りましたか。」という質問についてアメリカ人の学生は主にソーシャルメディアや友人を通じて学んだが、日本人の学生は主に本や雑誌や映画やドキュメンタリーを通して学んだ（図16）。

図16：調べた方法



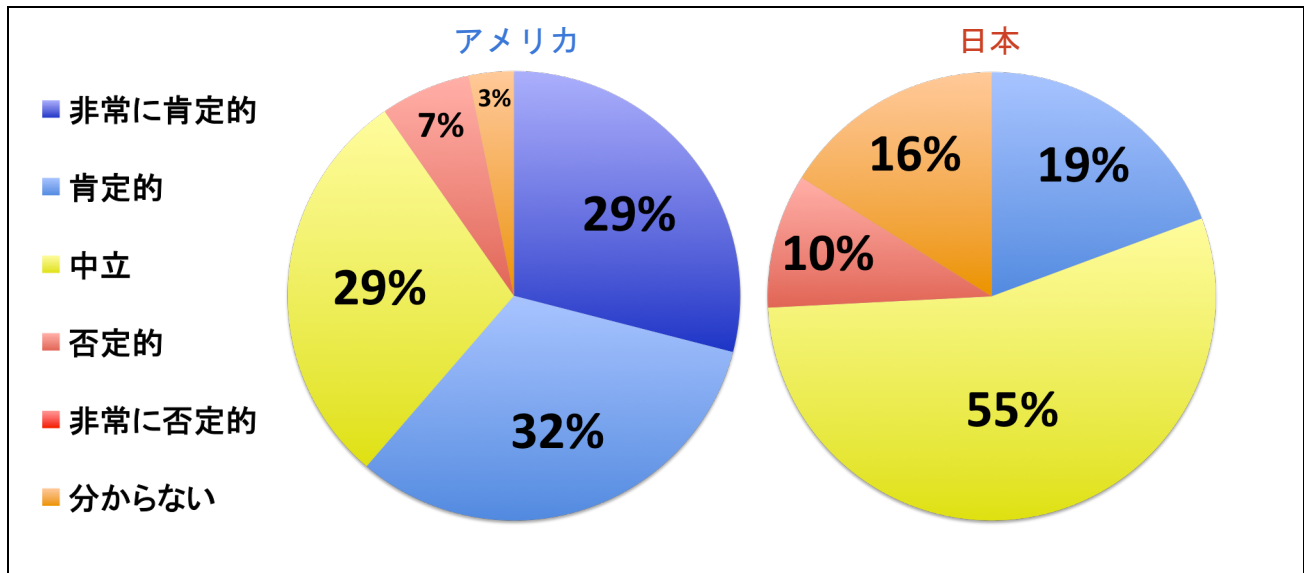
「トランスジェンダーが最もよく話題になるメディアを3つ選んでください。」というステートメントに対してアメリカ人の学生は、ほとんどがソーシャルメディア、テレビ、ニュースを通じて、日本人の学生はテレビ、ソーシャルメディア、ドキュメンタリーを通してトランスジェンダーの問題に関して知った（図17）。

図17：トランスジェンダーが話題になっている3つのメディア



「選択したメディアはトランスジェンダーについてどのように位置づけていますか。」という質問に対してアメリカ人の学生はトランスジェンダーに関するメディアの取り上げ方は肯定的であると感じ、日本人の学生はほぼ中立的な立場を取っていると答えた（図18）。

図 18 : メディアの位置付け



5.4 研究質問2の結果

宗教についてアメリカ人の生活の中で宗教はより強い影響力があり、否定的な教義がある宗教が多い。日本人は宗教的な影響力がほとんどなく、トランスジェンダーに関する教義があるかどうかについては知らない。

教育についてトランスジェンダーについて日本人はLGBTに関する情報をクラスで学びLGBTに対してより包括的アメリカ人の学生は、主にソーシャルメディアを通して学校外で学ぶ傾向にある

メディアについて日本ではトランスジェンダーのアイデンティティは主にテレビで中立的な立場で取り上げられていると感じているアメリカ人の学生は、メディアがトランスジェンダーの人々を肯定的に表現していると感じる

6. 結論

アメリカ人の学生は全体的にジェンダーの多様性を受け入れ、LGBTコミュニティのための組織化した権利の長い歴史があり、個人主義的な文化や自由な表現を重要視し、アイデンティティの多様性を受け入れる本当の平等を望んでいる。日本人の学生はジェン

ダーの多様性を受け入れているが、自分達に影響がある場合は中立を好み、違和感のある状況を避ける習慣がある。また、日本ではトランスジェンダーは精神障害による物と思われる、個人主義よりも集団主義的を必要とする文化があり、人と違う意見を持つこと難しいと言えるかもしれない。

7. 研究の限界点と将来の研究課題

アメリカの学生の回答者の大部分はカリフォルニアの出身で、多くの日本人の回答者はアメリカに留学した経験がある。このことが結果に影響した可能性もある。また、特定の用語の翻訳は非常に難しい場合があり、日本語と英語の翻訳が一致していないかもしれない。

Bibliography

- Bolich, G. G. (2007). *Crossdressing in Context: Dress, Gender, Transgender, and Crossdressing*. Raleigh, NC: Psyche's.
- Hoffart, J. (2011, November 20). Paradoxes Pervade Gender Issues' Public Face in Japan. *The Japan Times*. Retrieved March 27, 2017.
- McLelland, M. (2004). From the Stage to the Clinic: Changing Transgender Identities in Post-War Japan. *Japan Forum*, 16(1), 1-20.
- Obara, S. (2016, June 15). LGBT support grows among Japan schools. *The Japan Times*. Retrieved March 27, 2017.
- Stuart, E. (1997). *Religion is a Queer Thing: A Guide to the Christian Faith for Lesbian, Gay, Bisexual, and Transgendered People*. London: Cassell.
- Taniguchi, K. (2004). On a New Japanese Legislation concerning Sex Registration of People Having Gender Identity Disorder. *The Quarterly of Legal Philosophy*, 2003, 212–220, 226. <http://doi.org/10.11205/jalp1953.2003.212>
- Teich, N. (2012). *Transgender 101: A Simple Guide to a Complex Issue*. New York: Columbia University Press.
- GLAAD - Where We Are on TV Report - 2016 (Publication). (2016, October 31). Retrieved March 10, 2017, from Shane Taylor website: <http://www.glaad.org/whereweareontv16>
- Sex and HIV Education. (2017, April 03). Retrieved March 10, 2017, from <https://www.guttmacher.org/state-policy/explore/sex-and-hiv-education>
- U.S. Departments of Education, Press Office. (2016, May 13). U.S. Departments of Education and Justice Release Joint Guidance to Help Schools Ensure the Civil Rights of Transgender Students [Press release]. Retrieved March 10, 2017, from <https://www.ed.gov/news/press-releases/us-departments-education-and-justice-release-joint-guidance-help-schools-ensure-civil-rights-transgender-students>
- 2016 GLAAD Studio Responsibility Index (Publication). (2016, April 13). Retrieved March 10, 2017, from Nick Contino website: <http://www.glaad.org/sri/2016>
- 日本：いじめ防止基本方針が改訂LGBT生徒の保護盛り込まれる。(2017, March 24). Retrieved March 27, 2017, from <https://www.hrw.org/ja/news/2017/03/24/301583> 多様な性学校で学ぼう広がるLGBT授業人権教育の一環欠かせない教員の理解.
- (2013, December 28). Retrieved March 27, 2017, from http://www.nishinippon.co.jp/feature/life_topics/article/60698
- 田中, 玲. (2006). *トランスジェンダー・フェミニズム*. 東京: インパクト出版会.
- NHK. (2014). *子どもの性同一性障害～揺れる教育現場～*. Retrieved March 13, 2017, from <http://www.nhk.or.jp/gendai/articles/3591/1.html>
- ライフ. (2016, November 19). *性同一性障害とトランスジェンダーってどう違うの？*. Retrieved March 15, 2017, from http://www.huffingtonpost.jp/letibee-life/sexual-minority_b_8606170.html